

而してかの少年なるものは煩悶堪えなかつたのであつたが遂にその煩悶から脱するを得たとの事であつた、多少病的の傾向があつたのであつたとかであるが、

あゝ願くは自分は四十五腰に梓の弓を張り、白髮銀を頂くの時代がきてもこの小學校の同窓會に臨んで、小供になりたいためのである、無邪氣な大人として生活したいものである、と書き終つてまた遂に自分ばかりオーズオースの詩中の人となるを禁じえなかつた、

My heart leaps up when I behold
A rainbow in the sky;
So was it when my life began;
So be it when I shall grow old,
Or let me die!
The Child is father of the Man;
And I could wish my days to be
Bound each to each by natural piety.

空を眺めて虹見れば

われの心は躍るなり

幼稚き時もかくありき

老ても新くぞあらまほし

我は生きて何かせん

實に幼児は成人の父

造化を愛する心もて

世に在る日をば結はなん

(八月廿一日記)

桑港のわびずまお

と し 子

變成男子とは法華經の奇蹟、轉女成男とは彌陀の誓願とさげど、これはまたいかなることぞ、髣髴さぐるしき三十男、巾幗に覆面して、讀者にさみゆることの苦々しやと、仰せらるゝ方もあるでございませう。さあ御静かに遊ばせや。愚痴のやう

ですが、四千里外の述懐、そんなに嘲らずに御聞き下さいませ。

太平洋の月に嘯きて、わが船のすゝみをたのしみしころは、吾も雄々しき男子にて、滿腔の壯圖を雪崖巖たる浪にそゝぎたる夜半もございました。

はじめに新大陸に靴のあとをのしりましたとき、あはれうき事よロッキーの山はども來れ、ナイヤガラの瀧はども吾を襲へかしと思ふたのでありませが、見るとしてさくとして、わが國ぶりと異なるのですもの、この國ぶりに慣れし人の、順境と見ること、吾には岩石嵯峨たる逆境と現はれ、雄々しき心も挫けはて、恥かしやこの國に來りしことを悔いし夜半もございました。

八年來弟とも妹とも思ひていつくしみし教へ子たちのこと、朝だに夕べに忘れがたく、寫眞をなが

めては夜のふくるを知らず、教場の夢破れては孤枕に涙を注ぎ、はては星のきらめきも胸をいたむる媒となり、雪の色も悲みを誘ふのよすがとなるのですもの、どうしても男性の資格はなくなつたのでございませう。

故國にありてはおほけなくも人の子を教ゆる身のこの國にては火を焚くことさへ教へらるゝ情けなき今の有様、要敏捷々々々と云はるゝことにはじめて知るわが性の鈍ましさを、せめては名ばかりも敏子とせんにと、かくは命じたのでございませう。變成女子の由來は先づこれだけとしてこの頃のわびすまひのスケッチ、拙筆にて書いて見ませうか。渡米後五十余日、慣れぬ勞働のため心臓に病を得、しばらくハードワークをさけて、家庭働きをしながら居るのでございませう。名利を紙屑のやうに蹴捨

てたる身も、故ありて、金はしき鬼に身を現じ、四千里外にさすらひ來つたのであります。この弱きからだにては、鐵道ウラークもむつかしく、農園働も覺束ありませぬ。わりなくも慾火に水を注ぎて、閑散の生活をしてゐます。流石は米國、親切にも價格ありて、給料の少き家は、その割たけ親切に、給料の高くなり次第に、陌路の人を遇するやうになるのでございます。金門公園の片はとり、かけ離れたる一軒家にて、夫婦二人だけの家庭、その下男いやさ下婢はとし子、生存競争の昨日の夢となく消えて、やゝ詩的なる今日このごろ、吾にはつらかりしアメリカの風、面を吹いて寒がらぬやうになりました。主人は腦病保養のため、空氣清朗のこの地に別莊を營みたるものよし、主婦はハイスクールの教師にて、且つ畫工

でございます。本宅はスタクトン街にありとか大地主にて兼ねて受負事業をもやつて居るときと申しました。

何をか憂ふる、歌ひ玉へ歌ひ玉へ、君は歌を知らずとならば吾先づうたはんかくと高くとうたひいだす位な快活なる主人、君まだ理解せぬとな、よしこゝに英和字書あり、引き玉へそれわかつたでせうとて、會話に字書を與ふるほど氣長き主婦、レデイと云ふ馬までが極めて穩和にて、吾はまことに樂しき家庭に來たのでございました。吾室は三階の一間、書室と隣り合ひの清素たるところ、床を離るゝは午前五時、こはしかし自分のさだめたる規則にて、實際の働は七時十五分前よりはじまるのでありますから、勉強のいやな朝なんか、枕の下に時計を置きて、幾度か夢の世界に

食卓を撤してのち、書籍をかたよせてそのまゝの食事、故わりて肉食せぬために菓子やら菓物やらマダムの贈もの堆く、悠然としてブレードをしため牛乳をすゝる顔つき、吾れながらどんなことかと一寸と見てやりたひことがございます。孟子にある齋人(?)のことなど思ひいだし、ひとり失笑する時もございます。皿を洗ひストープを磨き、ケツチンを掃持して朝の仕事は終りとなります。

(つづく)

保育者のため

東京保母養成 澤柳普通學務局長の演説

本日この席に参列することを得たのは、私の光榮とする處である、殊に、只今本所の多田君の御話に我國の幼稚園は未だ發達しない、随つて保母

養成の事業も進んで居らぬといふて嘆かれ、此養成所の設立は偶然のものではないといふことを述べられたが、私も至極同感を表する次第であります、且つ他の學校卒業式といへば中々賑かなものであるが、あまり賑かではないが、前途に希望の多い此の養成所の卒業式に私の列なりますのは更に一段の光榮と存するのである。

そこで、只今、多田君の御話に、日本にては、幼稚園は未だ十分發達せぬといはれたが、夫れは我國では十分に幼稚園の設立を奨励せぬといふことが一つの理由であると私は信ずる。幼稚園以外の學校は、今日、政府でも奨励を加へ、或は強行を令するといふ次第である、現に義務教育の如きは其の一例である、尙其他の教育に就いても随分奨励を加へて居る、然るに幼稚園に至りては、未だ